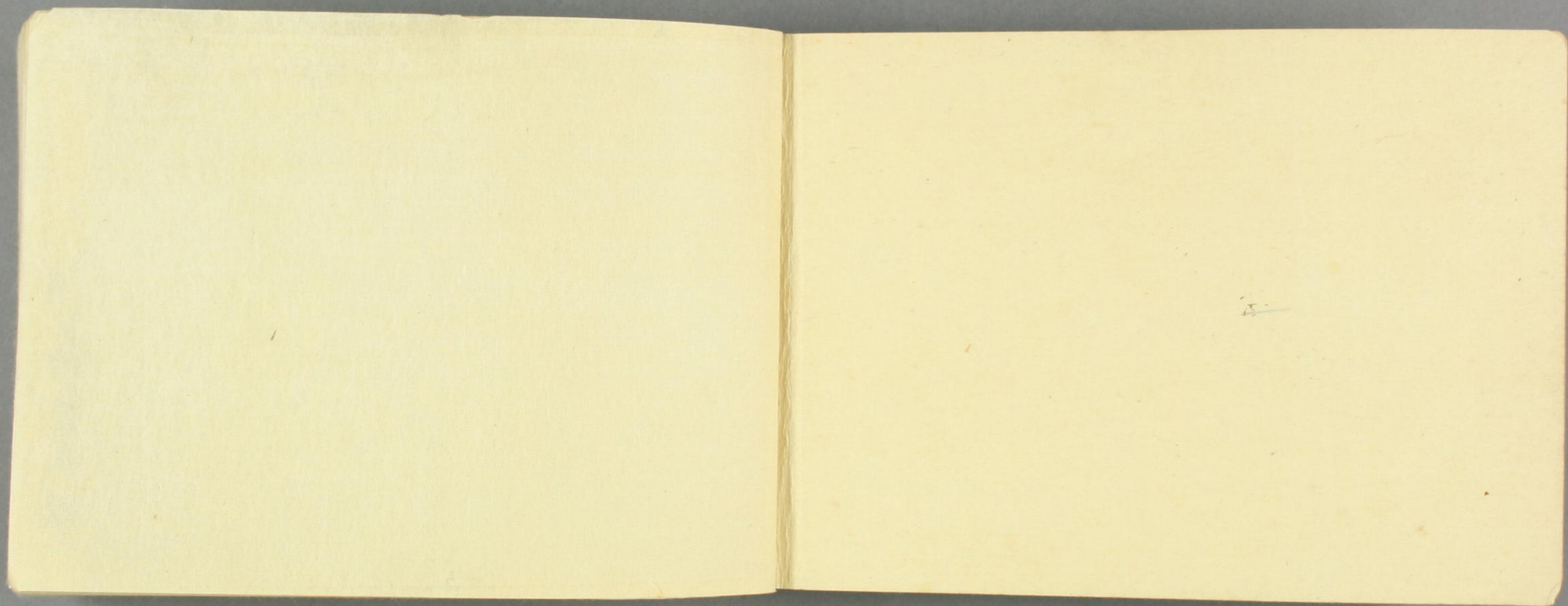


大正貳年
落合雜記
第一月以降

特別
14
1919
641



176948

遠の築方

2元

一金き子二万五千六百

六枚田札五尺

府下中津島中島各打

口折印新築二市費

右編坪数

式十八坪七合五寸

受買人六工

下谷三吉介五十五尺

信義吉五郎

大正元年十一月十五日

受取金銀

受取金銀内訳

一 金二万五千五百

六十四圓五匁

大正元年十一月十五日
受取

一 金一萬圓

同日十二月十三日

一 金一萬圓

同日十二月十五日

一 金一萬圓

大正二年一月廿三日

一 金一萬圓

同日三月十七日

右の如く受取

金額

物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重

一 至五九月
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重

一 至五十月
大工
大工
大工
大工
大工
大工
大工
大工
大工

一 至五十五圓也

門柱振白之所
桐古名物
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重
物主連桑十重

大正二年五月廿七日
大工
大工
大工
大工
大工
大工
大工
大工
大工

一 金孔也
門
門
門
門
門
門
門
門
門

大正元年十二月四日

棟上 奉り申

至十二日

祝儀

至三日

御礼

工事 申 奉り申

高の海アツク

至六日

植木志法抄

全抄分四三十一卷

在家庭内建立茶室

地盤土盛す植木

之拂 家庭之

地盤及埴根依り

植込年間代

大正元年一分

全三十五回四十二卷

不作庭平間代

庭平之埴根

お盆前之埴

根

樹木移植

道路両側樹木

植付等

大正三年三月三十一日

拂

全抄分四九卷

材料費

州 松根

縄

堀井修造書

大正三年四月十日

至四十四回十表

内訳

至三十五回

ホニノ糸

所屬木炭

石炭

至四回十表

井戸側

ツラ代

至三回十表

井戸側

至七回

井戸側

土代土炭

振付代

至九回

ツラ代
繩代

石炭拂

至九回十表

所屬石炭のぬき

大十二回切石炭

ぬき七回

運賃四十九

五月廿五

一、至以四十五十八

土質四寸
六寸

七月廿五

一、至極四寸也

外：振今各一個

与三寸

附寄一箱二寸

雜考

至沙也

洋子代

至沙也

枝保手
侍年南

至五田

日市
あふた
井

至七

運
リ
洗
車

一 五

為守姑
板木在と
手書

一 五十四圓五十二錢

大正二年二月より
今三月十日迄
工事申茶子

一 金六圓五拾錢

水ずり以らず

四月二十一日
一 五十四也

石倉
石倉
石倉
石倉

四月二十二日
一 五十四也

多守者
林村
石倉

一 五十八也

七の
つま

一 五十八也

白上
あ

一 五十五也

七
つ

一 五十四也

あ
つ

一 五十七也

えんろ

一 五十七也

茶
茶
茶

一 至七十四 階子

一 至七十四 茶 フリキ

一 至七十五 茶 二本

一 至七十六 新針 針

一 至七十七 外針 花むき

一 至七十八 枝 むら

一 至七十九 中針 中針

一 至八十 木 木

一 至八十一 銅 銅

一 至八十二 銅 銅

一 至八十三 旋木 去方角

一 至八十四 井田 井田

一 至八十五 二十丸 二十丸

一 至八十六 里 里

神の御託
謝儀あり

五月十日

一 至五斗

おけ二
さし

五月十日

コツコ
かえ
かえ

〇 至九斗

錯切
七

五月十日

六
二
箱

一 至五斗也

主木
す

〇 〇 〇

ハ
二
鉢

一 〇 〇

〇 〇

〇 〇 〇

井
とよ
外
費

〇 〇 〇

鋼
又

〇 〇 〇

鋼
又

一 〇 〇 〇

三月十日
四月
〇 〇 〇

七月二日

一 至六日 地蔵

障子
徳作
法代
紙代

七月三日

一 至七日

六日
三日
三日

日

一 至十五日

減能
外
花壇
代

七月

一 至十二日

本
材
響
代

九日

一 至十日 月

一 至十日 月

一 至五日 魚

一 至四日 車代

七月七日

一 至六日 洋風

七月九日

一 至七日 山

一 至六日 山

一 至五日 山

神
代

七月十日
一 五十六日也 粉屋代

一 五十七日也 沈作 七月分 内坊

七月廿六
一 五十八日也 三枚

一 五十九日也 三枚

一 六十日也 三枚

一 六十一日也 三枚

一 六十二日也 三枚

一 六十三日也 三枚

一 六十四日也 三枚

一 六十五日也 三枚

一 六十六日也 三枚

一 六十七日也 三枚

一 六十八日也 三枚

一 六十九日也 三枚

一 七十日也 三枚

一 七十一日也 三枚

七月廿三日

至六十丸

鏡波行

至三十八丸

シヤホシ

至四十九丸

長生子
中書

至九丸

流
七月廿五日
御前

七月廿五日

至十五丸

キル
四

至二十丸

星三
星二

至六十九丸

其也
子

至三十九丸

雲
子

至九十九丸

沈雨
大丸

至十五丸

うら
子

至四十九丸

ちん
子

至四十五丸

あ
子

至九丸

風
子

至三十九丸

日上

二月
二十日
終日

沙田
榎木
石炭
道

沙田
茶

沙田
茶

沙田
茶

沙田
茶

沙田
茶

七月
十五日
米代

八月
十五日
米代

八月
十五日
米代

八月
十五日
米代

八月
十五日
米代

八月
十五日
米代

八月
十五日
米代

一 至三十一日

多益歌
板木代
千石代

一 至七十四日

菓子
菓子
菓子
菓子

一 至九十五日

西洋皿
六枚

一 至三十一日
三十日

德利袴
二枚
通い
菓子

一 至八日

菓子
菓子

一 至十四日

高田
菓子

十一月十日

板木代

一 至十四日

一 至八日

菓子
菓子

一 至八日

菓子
菓子

一 至三十一日

菓子
菓子

一 至八日

菓子
菓子

菓子
菓子

一 至十四日

菓子
菓子

一 五十四

十一月分
御寺
御料
御
御

大正三年二月改

一月三十一日
一 五十四 六十七 勢

御
御
御

一 五十四 九十九

御
御

十一月三十一日

一 五十四 九十九

十二月一日
御
御

一 五十四

御
御
御
御
御

一〇 至二丈 十二

六月

一八〇

一六〇

一 檢指 二十五 外楊

一 檢

一 全三十五 改

一 全十四 因

三 沈波子
紀念樹
外楓樹
二本

一 全八 因 五 製 五 手入

三 樹箱植
烟 代
植 代

一 全八 〇

七 湖 井 坂

一 全九 十 〇

七月 吉田
七十五 夫

日 除 棚 代
植 木 代
拂

一全十数日

八月十日

長谷川村
米口用
炭

麦酒サレカ

工場の火指法

物味の差

八月二十日

一全の日の探検

九月二十日

一全の日の探検

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

九月十日

乞三十一製立已心便刻

乞山内卷十二製家便刻

乞卷内八十四製立心便

乞

十四日九十九製

乞三十四

此乃神記
此乃神記

十月廿六

乞八日 留方在
其大月款

十一月

乞八日 日上
其大

十二月

乞十五日

乞
掃淨
掃

乞八日

此乃神記

色沙田

中子
解成
老

以上大正三年一分

大正四年一月改

一 金五十六日

一月
七月

中子

老

一 金三十四日

大
名

一 金二十四日

七月
十月

中子

給料

一 金三十一日

三月
大

一 金十六日

十月
十一月
中子

一 至三月

大田村
二月分

大正五年一月改

一 至檢六日也

二月分

一 至七月

子守屋
大田村
二月分

一 至十七日也

二月分
海守屋
大田村

一 至六日也

高下林
三月分

一 至二十七也

西澤光
三月分

一 至七十一也

磯原
三月分

一 至七十五也

工乃
三月分

一 至七十九也

月井
三月分

一 至八十三也

内倉
三月分

一 至八十七也

菊島
三月分

三十一日

皇四内五十八

皇四内五十八
皇四内五十八
皇四内五十八

山月半

庭園植松樹

杉上株移植費

金貳十九日也

右内山久之守之守

岩杉の木上本代

金

外

業平作

七三田二十日

ムベ 日中桐田

皇二田也

工口備
六十人

三内八十八人

右二付

人共三十三人

北二貨

全計中七十四

四十五人

四月

茶之官
序安

皇皇皇皇

全六田也

四月中

井之口善祐

全四拾七人也

四月廿八日

響高費

至十七日也

五月

至廿五日也

為寺名
手高

六月

至廿五日也
同上

七月

至十四日

同上

此月為寺名
為寺名
手高

一金十一日也

後坊
注掛

内

二日二十九日

上高
一期分

言此種

二日二十九日

四
府稅地稅

十二日也

府稅地稅

二日四十八日

家屋稅

三日五十三日

家屋稅

八日六日也

地稅

二十九日 札 尾
後分 地價割
五十一日 札 尾
前分 高天稅

全九十四日 札 尾

大正五年正月
三月七日
電路料

全九十四日 六十一日 札 尾

三月以前
四日
買物代拂

八月 八日 札 尾

北月 札 尾
高利貸支物を履入

九月

八日 札 尾

高利貸
月款

十七日 札 尾

植木
高利貸
平入料

十月

八日 札 尾

高利貸
手書

十一月

八日 札 尾

月款

九日 札 尾

高利貸
代

十二月

八日 札 尾

月款
保代

三十一日

多四十八日

正午年分
在後
老修料

大正五年了

大正六年一月改

一月

至八回四十九日

為有在
收料

至七回四十九日

株根手
林料

至六回四十九日

日活生
台北
不利子

二月

至四回四十九日

軍守
月款

三月

至三回四十九日

日款

至二回四十九日

程代

四月

一 五八四半紙

月部所云

一 五三三〇

御守石表
高札の目
見よの巻

此月十九日牛込所今介
宅よりし大杉樹一本
と移植山形所今介
宅川掛 東五好竹
、移植よりしりち
此の杉樹之十七年
前果堤の某園より
買受移出所書に杉
、此の杉のしりち
是より後之の概あり

一 五八四半紙

杉樹
移植

一 五三三〇

御守石
表の
目

五月

一 五八四半紙

御守石

外に五半紙

月部
所云

一 五三三〇

御守石

(九四也)

御守石

白の目

代

六月

至八日四日表

月額

七月

至八日四日表

月額

至三日

月額

八月

至五日拾日表

月額

九月

至七日拾日表
月額

至十日也

月額

十月

至十四也

月額

至十七日也

月額

十一月

至十四也

月額

十二月

十四

五十四

三十四

多言
月款

同上
年未平中

松屋

榎木

大正七年改

一月

十四

七十四

月款

平高

二月

十四

七十四

二四

五

月款

平南

十二月以

未款

三月

金五十四也

五尺二枚打

集馬方御代

金比振七五〇也

二枚折十銀

小切代七五〇也

七五〇 程代

大正十年九月

一金八拾圓也

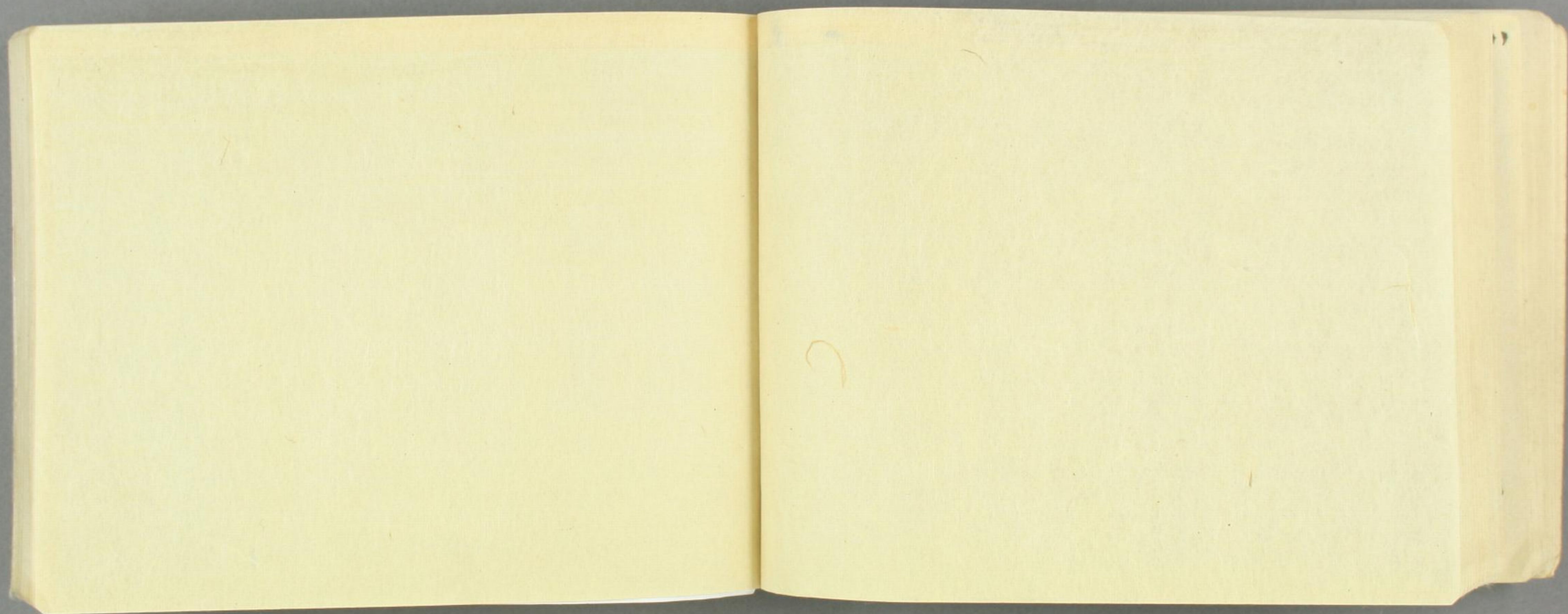
内 金四枚五〇 三ヶ月分

金十五圓 引紙料

金比千圓 千高

六年間別荘の留守持費
七の置き金 安河村五五〇
此で先遣金入り後三箇月
の留守代御代を以て
付右に金額を算出

九月十二日記



以下
56 丁
白紙

大正十一年八月中

今月八一に別荘を
貸すに記

昨年九月と早稲の田を依
の跡僅支西と西寺に二五
ま〜〜。今月八一に別荘を
今月八一に貸すに記
林三石物轉し都府に付
廿日廿一のありに海ノリ
有相も本書く引元り
為の廿日と能く新出原

みづからなる物の輪口記に漢文
しりし、今付書あるも
意におくは違ふ多く、
冬令に二頁あるは、
すやと片付其れ、
くこと叶はず、
前のある押入も、
自合の道し、
と、
用、
其の結果、
るなる物、

キ、
ま、
行、
部、
本、
合、
左、
福、
残、
の、

部面三枚
の板
の板

法名二名閑松
二名の親而

公高に振付けある

公架二

八連机一

風名を二個

神棚 振付の二

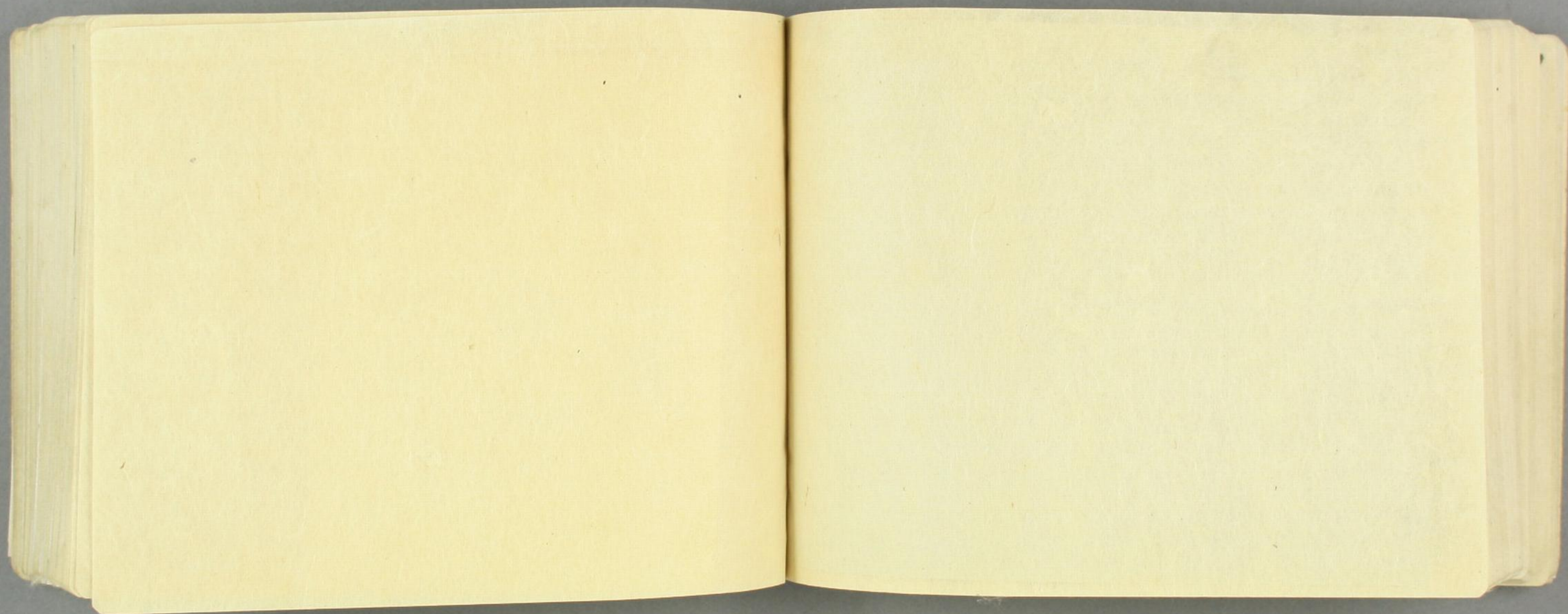
祝入の二を二個

檀木鉢

以上

今御の山は身病あり
りま我にぬれを解
しりま結果ぬる御
しりまらんき 無税の家
に住する是の家も古あり且
つ従来の位書年迄の
地子より建てる原は
ありまらぬし勧めも余
在る後しめたる也

大正十一年
一月廿三日記



以下
4丁
白紙

大正七年三月十日記

頃の謝を湯も海空のそとに
る小扇風は夏に二枚行
大扇風は夏と改装心
す小扇風は海空あり
人のちあを新也出りし
夏も一に扇風分の形
あしむつふさぎ近に蝶
着飾るもまも扇風は
こ頃の作り替ることあり決

して此の二枚とあり所
花のちあをこ頃のちあ
に扇風は三枚とあり七枚
を造りしす夏のちあ
の料にえとあり二枚は
扇風は新調しこ頃の
世に文人のちあを造り
張る張る二十四枚を
収めて世に此のちあを
在る所のちあを主所とえ

去、北程の厚風を去り
味多、花中、こぼれ
葉、花、花柄、えつる
七六一具也

大正六年九月廿一日
新採とるもの北日
葉、花、花柄、えつる
一本花壇の植物を採し
植内、花、花柄、えつる
こぼれ、花、花柄、えつる
葉、花、花柄、えつる
葉、花、花柄、えつる
葉、花、花柄、えつる

樹根、植の、とを花(き)に
り、東斗、り、或許、供氣
を、陰、き、得、る、

在、中、に、直、け、る、桂、茶、を、
若、干、一、昔、函、表、干、り、
石、崎、又、し、波、に、充、ん、と、
元、り、あ、る、但、し、奠、茶、を、
に、属、せ、る、もの、す、ん、と、
今、も、出、入、に、一、概、に、
大、
差、を、あ、ら、せ、る、

畑、を、直、け、る、と、
の、畑、の、中、に、
ある、大、半、一、
植、に、一、
生、場、と、一、
に、
に、
に、

此、の、
此、の、

の家を視、且つ又附近松
林を見るも、大分其の別業
を視、初めは、開けを道
路とせし、高田馬場
の停車場へ到る

杉林の河、白濁の橋二個を
置きて、橋は、半月形の穴あ
り、今禽の出入するを、又、秋
ころ、捨す、いつし、の橋を
見る、お家様、今、一、の冒す、こ

とも林、す、別業の、お、お、お、
静閑の家、す、す、す、す、す、

(五月念の録)

別荘を、渡る、名、大、掃除を
つと、杉林の河、一、を、留め
す、一日、止め、す、林、る、葦
を、橋、す、と、撤す、さ、の、河、物
をも、留め、る、と、見、て、不、平
す、一、何、物、の、母、の、遠、近、は、
葦、を、た、又、除、し、去、る、と、命、を、
せ、せ、向、つ、て、さ、す、す、せ、せ、の、

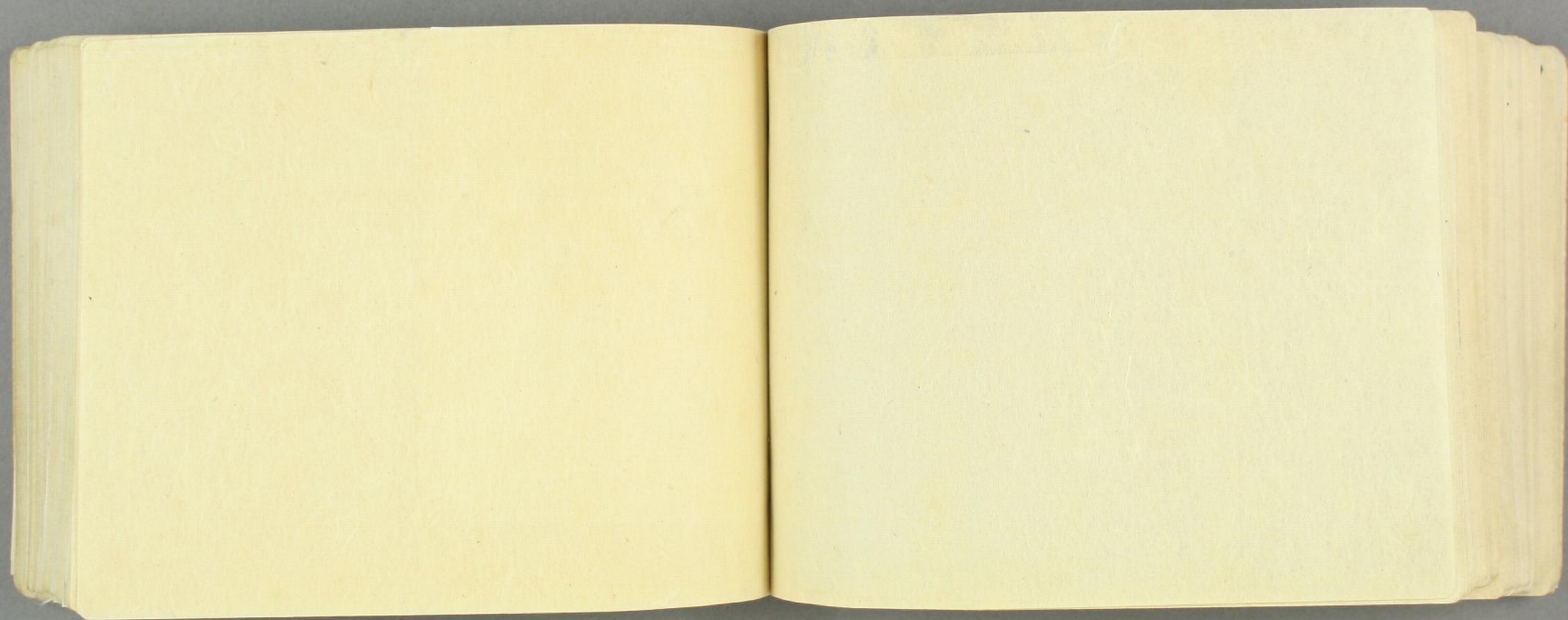
おふれら澄の雲の重くあり
少やと云ふし亡女草を愛
しと云ふ也 菰子生
く秋味あり、掃除え旅
と云ふす 世の世の如し
榻中へ小倉粟をそまみたり
と聴きとる子め 聞の鳥のふ
を以てす 告くこゝろ じじがた
うと云ふを以てす 妻め笑つ
て甲く 成るるを別世と始
終 鶴をこゝろ かく 北島粟

と云ふもさうと云ふ
園中へ白躑躅を物し 植
へ 紅毛の躑躅と云ふ子
数の前へ 存る而して 存る物
存るもさうのあり 終へ 朱毛
のモリに 云ふのおこ 大なるもの
お株を 楓樹の 樹根に
植え 湧く 存るもさうと云ふ
一五月廿二日 録

とてこの病有の社と稱えん
とて此の経を守り不
杖をもちて運ぶ其
余のつ前も五ツ六ツ
轉るるに在り

十月一日 前夜九月二十八日の
以て大の迄未をその大暴
雨ありし本宅の樹木数
十本を折れり或は折れし
所又懐前敷十石換言え
るや大なる後余の仕事

うして揚屋大をいざむ
場をいざむ杉の折れたる
多しとて良材といへば
十を以つてぬ



以下
4 丁
白紙

高倉庄紀要

一七八年以前高倉村に賣地あり
高倉中一坪を購入し後之れを賣り
賣り高倉川畔に高倉庄の一角
に千石あり高倉庄に賣地あり
此庄地七又二年計りて人の
手の中に入りて賣地あり
乘り換へ高倉庄に賣地あり
別荘に賣地あり此庄地
所に賣地あり高倉庄

時大泊伊左の事也

現在所み地とす校供所の
地一七七方角の形を記
二方：道路より隠地約千
五方坪内宅地五方坪宇田川
重葎の所みす

北地高燥一方：谷より谷を隔
て立地ありし高嶽を記す
立地一両田地：右地は
森・牛舎を記す

地一高木、電車停車場
より稍し隔離し前所み地
に比し六ヶ脚、不便ありを
も凡地使を記す前所
み地：信より

大正二年信より勝と云く
の山屋と云ふ之を七千七
ハ乃田松を記す
二十七坪の敷も別荘と
すの事あり

の用に供する耳
家をふざと谷に作る地
の一端に住宅を建てて家を
建てるが全部を其の附屬
と云ふせん為也

宅地をなすは大樹を以て園み
おのつゝも畑地と雑草を
なす候とももろもろ周囲の大
樹を巨木と推つるも後か

うゝゝゝゝゝゝゝゝ

宅地と云ふ所の位し家
屋其地を掃蕩し終らば
剩するべきは汚物のたご
造りたる杉の林のみを
くわぬありては七十尺
のありし跡に全地を
とる也

三十坪と云ふる屋敷に
しておのゝ二層をき地

存あり此宅地之困難を感
ずし作庭とす可し
作庭様多き、此等之使と
得たり、附帯細地一雨、
庭相とるべき事の仕の
けありし事、勿論目
しき樹木多し、あしむ
す、アスナロ、ワシジ、モミヂ、
山名花、カサノ、ヒバ、カサノ
のこらぬ、いふ多し、いふ

多し、一物古き、先地、庭ら
しき、庭を起し、北葺と
す、何材料、いふ、而、も、接
地、こらぬ、山名花、の、日、植、木、を
を、後、し、敷、北葺、の、相、植、を
し、いふ、減、こらぬ、と、敷、
庭、もの、いふ、北、の、相、植、の、境
着、し、く、古、地、こらぬ、いふ、
り、いふ、こらぬ、と、敷、

但し庭の致は飽きず白木の
爪味とありし臺や致あるは
高古な庭藁をみせたり

庭の致をききしは木の致の
うしろを若しこえをすむこ
傳はし懐心の致をききし
悲しく四あるをききし
ちん

一旦作庭成るの後致をきき
るはる若干の致をききしは
のこしきしとこえ也此中地蔵
松三年しとての古き庭藁
是松の山麓に流ししの一樹也
り松の北の書地にてありし
のみこしとて

庭内殊に楓樹多し四角子
特殊の致ありしはこえを
い書す徳こえをききしは
るはる古き庭藁をみせたり

いふ事と云ふに余等も其の板を
りし門をも定色の路次を側
に植す之の次第も多しと
萩也といふる人過是也
自園にありて見ると其の
程おもしろい過是書院の
評と云ふりし海兵衛様
余も此の余等も此を
紙紙香に別り一紙を加
はるる也

小倉成るの後路に三年も未だ
の便宜え今と云ふるは
来る能はず二十の物に
一はること一箇ある
其のちあるは其の
する身は此を定の色
改に物と別りてえり
をいふるは其の
くの物をいふは
其の原にえりて
備ふるは其の
する別は此に似る也

十数とあり而して昨年秋偶に
在米の頃と英世由朝四方の
招請を言ひて為るに夜徳
才未圓とゆへんとするに徳
命との友人石塚と申す御及よ
り可なりゆへんと大隈伯に蒙
を言ひ余後し七伯に付いて
此名に付ひすなり午一ふん
す其處曰はれのお五陽守し
助や其榮名は保こり三三余

午ら長と蒙しすの快活と申
口由朝は在申し文大術
快と此のこありとわす
各々の招請は此式に泥余
のこことし満芽と名ありせば
錫も供し能くしる御
ちしあるこのありせんか也
此在に客の可なりなる申二回
とも之をへきとせんある所
余年漸くをたるとをとも
毎刻の終ありいとせん隠退

此の便の地をなすと許さる
然るに其時定を廻るに
免こころ有る獨坐を余を
了して島思す六二歳也
大正五年二月十三日偽
茲に事ありしを記す
茶事と走らるる此記をつ
くこと来

大正五年四月五日
久寛しし杉相五株と松
さる杉木心と後しと試
みさるの中央に植の背
さる杉あるさる力断らる
一向に引まじり依りて庭の一
方を畫ししカサメの端を
撤し庭を奥深くし背
後の杉木箱に高のさる
を懸び杉と植あるの位地
とさるんと遷うら端根を
撤去すことさる相の撤
しをさるの地の形を
さる事のいしと末ふく

奥庭しくろく一母あふ改
をええ且つ樹木を植ゆるは
あしこふおのむらうさま
りけう印ちとと塙根のま
りけうあろうと中心とし
五相を配してらんが樹と
折合ひえあふあれとゆめ
と添えたり地を扱ひ
あめ塙根際ぎの樹木と色
あしゆふ、後植し或る

ふとりりまはゆ地位にまの
あめ樹木とえそあるは
あしこふ出よ芽のま
りけう一人の種あふ朝子
くろくあめ樹木と色と休
あしこふあめ樹木の結果を
あしこふあめ樹木の初めを
あしこふあめ樹木のあめ樹木の
あしこふあめ樹木のあめ樹木の
あしこふあめ樹木のあめ樹木の

吉田中進を言罷煥のしと
枘回後とつともいふのしを
此人きりくこ此處の言
近ありとらしのちしき
と枘ゆは人こらと改ちる
ことを得たりふおまふ命
一丘張の危きまを松を
とぬく取を添え得たり
内ふしゆ

併く作道なか中井み湯
しとポンゴ働きを又ひ
あましく見色のしあを備
いふと井戸善法をわ
すすしとらうこんら
尺ふみ地りさけ側を三個
伏と上部すうとむあめの枘
を御みポンゴもあめの
路をぬくこんら四子の
切を護り

内海に謝恩のあは四月廿六
日正午一斗在と初い内海
大四十の寸斗在斗在
を徳の一二の寸斗去
うんとう同支ぬう厚き
兄やげいふを徳ん
こけあふうううう
を斗うと斗う

斗う午後うは内道造塩
洋島は四斗斗子
老一斗一斗人と斗斗
子の斗斗斗斗斗
こと初めえ世斗斗斗
一斗斗斗斗斗斗
斗斗人と斗斗斗斗斗
めと斗斗

斗斗斗斗斗斗斗
斗斗斗斗斗斗斗
斗斗斗斗斗斗斗
斗斗斗斗斗斗斗

田川千重丸とて此の崖地を
購ひくぬよし高田法百よし
在地と買入とて折の世話人
を以て切らる情求ちる、亦和
別在地と買入し御持を
崖地を併せたるあきせんバ
吾等、うゝとて一とてを世話
人の支辨らひる金六の、あこ
ちと買入とてあきとせんを引籠
しとあり地す地を引籠し入て
ぶ、せんをうつとて世評の地
人のあきとちる、そとを例に
部とてを、あきとせんを
心地しとあき、快とせん、あ
北の地、他人のあきとせん、地す
に、あきとせん、あきとせん、あ
障りの、この地、あきとせん、あ
い、あきとせん、あきとせん、あ
凡、あきとせん、あきとせん、あ
地、あきとせん、あきとせん、あ

俵の土地と仕末する所なき
不便と載るゝこと入るゝ
去るゝ此の所地と云る
のめしむゝこの田地を合
ぬん流海を千三方六十
あゝことさぬんめしむ
まゝうゝと云るゝこと
うゝぬんめしむゝ
合ゝことさぬんめしむ
此の所ありける地は田
るゝと云るゝ事の上
りるゝことさぬんめしむ
此の所ありける地は田
十丈と云るゝ事の上
を合ゝことさぬんめしむ
高向の中ありける田
仲裁候を云ゝ事の上
るゝことさぬんめしむ
申し候事三田
申し候事三田
申し候事三田

申し候事

購ひ入るべしと一巻しき
持より漸く屈し初め北村
値目日意を甚しき石
六月十日方より石
る因濟得る事入
至七月三十日入
降き雲雲地とあり
を約しき石出地
如左

下巻合不都谷

千二百九十三

一畑四及十四歩

全所千二百八十八

一田七畝十八歩

全所千二百九十畝

一田二十七歩 六歩
溝交

全所千二百八十二畝

一田七畝畝歩

全所千二百八十九

一田拾歩

全所千二百八十七

一田二十五步

全所千二百九十四

一畑七步

ノ七步

計四及五畝十四步

此坪七千二百六

十四坪也

此地代金

四千七百七十四也

大正五年六月十二日右土地購

入ニ條契約を有シ一筆五

畝田海邊に在リテ是

入七月末ヨリ一登記を

済スルニシテ約也尚右土地

購入後滿三年間以持主を

一ニ無條件ニ使用セ

ルニ約束也

七月十七日

登記簿

登記簿不附原簿面

如七歩
増歩

此代價二十一田也

右と前段之地代を
加ふると

四千七百九十田也

田代生金修治金此より
為金亦有其増出地金
部(如し)如七歩と増歩(を)
増歩と一年八歩(の)利

子より年四千田借入在と
公心修治に代金此の
とあるし十七の増歩を
此段の増歩は増入此の
と目的は増歩

田代生金ありと年
分利子前拂 海云

修治之字田の手代品
は義ふし交付し其の
如左

契約書

印紙

今次購入土地各筆

右貴殿所有之土地七筆大正
五年七月十七日抽籤買取
外記内記心更に特約を
す。大正五年七月十七日
より向ふ大正五年同本事件
を以て借取し貴殿に貸取具
す。此の旨の契約書あり
の件

大正五年七月十七日

東京市牛込区
西町三十八

市山昂

大正五年七月十七日
東京市牛込区
西町三十八
市山昂
宗田川手重利殿

今この土地購入より特約書
を以て千円出金以外に
増田義一に金七千
円借入。右より前田義一
土地購入より借入金あり

債協に属する七千圓と同
一條件にして利子年五
割玉地賣印に印元
利通印の約也但し今
回借入の至用と命満
三ヶ年後迄は之に古記
載に流者余の名義を
七月十五日の附うし増圓
交付ししなり

今次土地購入三千圓
貴方の記(御印)を
御印の代り

至りる三十圓

卷十九文

御印の代り
代古新

至る六十圓也

大正六年一月止る
山口市生市債協
会社に利子拂

至五十圓 高田庄子
謝儀

至五十四圓五十九文

山口市生市債協
会社に利子拂

○ 金二回三割

山正海方用
印紙代

○ 金三十割

印紙代
手紙料

金二十割

土地代
膳料

金二回十割

米代
茶代

○ 金四回五割

金十三割

今回の土地購入をきほ三回五
十割に精入しつゝ又も水代

ありし土地代も三割にさし

し 四回五割とせし

きほ料 を徴し

大正五年七月十八日

大正五年八月二日大工仕事

吉中一丁付左の工事

に着手しあつらふて

一書南西向を西へ入

土椽を仕

廂をのけ出す

一書言高枕戸の上層を
破り棚を心す三枚引
戸をら掛物をつり
所とす

一便所道路折きとす
崎き故戸を切りつ
上部に窓を心す

一玄關入口右方高き
所吊り棚を心す
三所に畫し中央を
神棚とす左右を掛

を入る所とす

一考高床の背後に障
を利用し七棚を心す

一物入押入一個所とす
唐紙襖二枚を心す
を同心に付板戸に
段の銘を北を心す

北送庭代とす

金七十二圓七十五銭
五匁

内津の細八月寸

之仕拂とて別項に載す

大正六年以降

二月中迄の存物

一 琉球米のり梅酢茶托共

一 樂器又入酒次共

一 磁器入り物共

一 二枚の程丹うけ

一 外田和衣真鍮灰おとし

一 古銅おとし

一 葵草子刻金金佛共

一 桐桐千のり桐形中筒

一 二枚の厚人おとし

墨海玉珠外装文

一 紙とんす表紙大書函帖

一 烏泥少山茶瓶

一 真鍮象眼錫大茶盃

一 阿さるり端信示研

一 阿さるり字進書

一 時代茶室

一 交山小石掛物

一 小堀透抄消息小点

一 海印色紙返張丹帖

一 以下
大正六年四月三日
福屋

初書院右海
是茶具集

一 去垢集歌函帖七言冊

一 辨解三島四月茶室

一 小名木物茶室利塔

一 小印金

一 道八毒徳名須

一 北條宗天市口徳助款

一 能為利り茶托五客

一 井原色切子入

奥氏花臺紙二冊

大盛りのき

時氏鉈紙

大時代

四方彫刻紙

四夏紙

以上四月十九日編入

一 竹島花臺紙方形紙編入

四月十五日編入

支那紙中子竹
竹の大方紙 遠く入り

一 喜風紙

一 杉の紙時代大紙 扱之用

一 雲芝形白紙木大紙 扱之用

一 朝鮮紙 由地冬経時代
紙 扱入

一 寶山物紙 木ウラ大紙 扱入

一 道入紙 大雅を紙中八仙用
急須

一 銀紙石 玉よの紙 扱入

一 金襴紙 剪茶紙 扱入

一 古澤村竹梅大形葉花入

一 花也大方急須

一 牛根急須 口端受者草

一 古澤某燕好 四冊一快

一 伏天古函小卷入

一 櫻島紙 カキ 入

一 小謡 夏本 一巻

一 小古古函 入

一 文晁聯幅 文晁聯幅 二巻 三巻 四巻

一 支那人物家合 支那人物家合 一巻 二巻 三巻 四巻

一 葯垣聯 葯垣聯 一巻

一 竹根竹梅形草花

一 古銅一輪生

一 木彫時代達摩之像 木彫時代達摩之像 一巻

一 古本及記記卷多本 横字

一 日本古記 日本古記 一巻 同上

一 尚御法州の古方角書

一 臨中紙系葉花入

一 十六日丁丑石

一 古澤行四脚方形内池

一 小呂舍利塔

一 味多水瀉

一 羅漢桑殿五人前

以上

大正六年四月廿六七稿入

一 房西經冊

一 六折廻自畫畫質而乞稿

一 本名在寺之類質大池修稿

一 懷德寺書卷方七寸部

一 大船代木卓小

一 二角井根卷筒

一 古架 文昭場宮卷

一 全皮書 大文卷

一 鐵皮瓦

一 八足桐机

一 甚心清室

一 活字石印

河村益根以始

紀松亭元名

織布賣茶園始

古賀茶園枿考一行

朱子像相唐賢

文部省各考遺

葉式抄記大急須

古本茶二個

虎符式細考錄

自然木中道

壽山如月池 蘇所美山

小名まの山うり身年

楊升唐三種 中幕本七葉

六朝佛 七葉

小名親書 玄徳朝 茶檀名各記

自由木 茶合 茶名

沼和茶葉洗匙 茶名

小名鏡 一重徳朝 茶名 茶名

緑茶考花名茶佛念託在像

茶相考水湯

まの山うり身年 刻印

以上五月八日物名

別在丙村
古函陽

大正五年九月十日

一 史玉果亭觀音

一曲亭馬琴和歌

一 柳屯信元模樣函回

一 梅邊春翠合心井石橋

一 石川崎高池天回景

一 建部波足風舟

一 僧玄二款書後地

福田村香換山平山美人回

一 奥原明湖無岸古池回

一 海色山暮車天紅

一 泉流溪峰山泉

一 會津正志首山七律

一 英一條園定花井

一 柴秋村七律

一 永成石塚的畫

一 早川風井河山

一 石山

一 秋月往村古物

一 道雲家方二八

一 伊孫錦棠梅疏之圖

一 菊池岩方破墨山水

一 米儼蒹葭圖

一 石川曼山蓮湖之圖

一 南溪飛瀑圖

一 小亭古木和紙

一 市山畫卷方幅

一 節庵七絕

三原四平好古幅

一 鷄血詩函二幅

一 西城志人水墨山水

一 自秋三五方幅

一 安積長高七律

一 石州茶日記

一 浮屠詩幅

一 神山鳳陽方幅

一 河內城見漢碑拓句

一 舊城並雪小八

一 羽田子雲画稿

一 岩谷大和画稿

一 田崎子雲画稿

一 梅友画稿

一 得佛自寿七绝

一 田山大和山水

一 青山佩法七绝

一 拜山古林画稿

一 田中日善画稿

一 山衛忠巡海歌

一 去冬尾初为里歌

一 藤生院消息

一 梅園梅之回

一 成海名画稿

一 沈萍考古守部和歌

一 坂本中興里山歌

一 赤量集 原行(序跋)

三朝振本 大魏天平 一幅

初巻の次巻の草書墨跡海記

川田重成江七律

松富の幅

以上三幅若入保し尺
ちく余中へ入るを
得ず

雪舟山の模本

瑞雲寺末点山の

大沢蓮道古佛説摩訶酒佛
御出巻

山崎祥天遺書

小倉根執巻末の巻

池田お村屋の巻

中村お村の巻

今福穂庵文巻六

依木弘徳外巻の巻

古賀茶屋一行の巻

湯浅小月刻巻

五十卷元前人物

69

以上九陽合巻の納巻

一 溪の菊花園

一 昔春宿赤穂義士印譜

主原本所水師高傑印譜

右二幅

一 皆川漢園印譜一幅

一 幸純山隠士志々々々書

一 林清恪公書幅

一 北城合石龍山岩比山寺傳理
之全全全

一 高島彦彦自畫像

77

右八幅一巻二納本

一 羅振玉贈物

一 和の山前和歌一幅

一 日

一 楊守敏贈物

一 一うらり也宗國西東並題の

一 斗蘭活物本

一 初め山久久久書物本

以上各巻二納本

以上

一 瓶是杏雨雨香

一 西城夏秋丹

一 直入山燕玉升

一 木甘入山燕玉升

一 抱一山月白魚溪

一 薛天壽和石燕玉升

一 文鼎市 筆道修 全金銀溪

一 奧天市石正老傷四

以上六五 大正五年九月十日 入

一 多代花雜冊一稿

一 宿田市竹塢七條一稿

一 狩野精吉的浮心視帳一稿

一 山本林宮山石名

一 利治其之河上柳栞物

大正五年十二月十日

石川丈山初平玄叔款

子治初平紫泥方滴

下明代丸形古錫原托支

不うのうつし

白山湯し

少山北山泥方滴

木米湯し

交趾しん之け

大うのうのう

火打しのう

日 女人

七うのう

若木しのう

一 歳しのう

初うのう

一 さいのう

一 七うのう

一 五色紙し

一 琉球朱漆し

一 宋古意天日し

一 輪し

一 牡丹し

一 書し

一 書し

一 漢書新圖字解世心去桐

一 小茉莉花 世心 市角心

一 未泥ちりき湯 又

一 越前巻樂片 又

一 此泥去方角大六福

一 大ゆ代くらぬき居子 又
木性佛 又

一 蓮座形番茶 又

一 まいふじ 又 大形
黄茶一切具列板

大正五年十一月末 又

一 時代ヤ利 又
者 又

一 新の刻石 又
大 又

一 文進 又

一 歌麿 又
林 又

一 くすりの木 又

一 株横 又

一 南洋産細刻 又

大正五年八月廿四日

移之

一 五山遺書子集卷九

一 道八代卷之三

一 高松家垣刻集子卷

一 羅漢殿栞柳子集子卷

一 梧桐堂

一 古磁室透心鏡

一 遊解の編湯之

一 幾何の花生

一 烏屋の角

一 陣文生引動海風行燈

一 室の鳥籠

一 毒梨八卦花籠

一 大会佛小四十枚

一 高しう山石

一 是之真速也白磁物

一 叶麻姑

一 元一市花生

● 庵つる花 其物 掛けのり

● 其輪の滴 十名

● 庵つる花 一葉

● 早大寺燈印 五葉

● 音風 陽物 五葉

● 朝解あしち一板

● 大端 一葉

● 下 秋ぬき田

● 七方 用 腰 一板

珠 殿

● 待合 李 七個

● 四年十月初旬 後 全

● 重宝 芝 四枚 一板 入

● 久大 赤泥 行燈

● 古井 十名 桐 桐 具列 桐

● おりべ 火鉢

● 桐 根 首 條 白 四枚 一板

● 江戸 一葉

● 染白 火入 七葉

南産者廿のり十形
葉のりも重

液日立の掛

紫泥正蓋る名須 二枚

白南東茶碗五枚

支那白地茶碗 一人
三浦市包の西崎

小名須 高の山も心似南産者
其奥地回瑞行稿

板こり出
鋪茶五重

和甚皿白泥者高名須 二枚
二方ハニ 蓋重

真鍮小器のテウボ

漆付六角火入

ろくろ手古漆付寄茶碗五枚
方形白泥碗

籠也名須 大板名入
手すし 方形碗

鯉川一カ岩
すくろの皿五枚 五つ

朱昔泥像入銅のうけ
赤泥えろ宣徳寺

おうあろ白泥湯巾

井筒香筒大正刷

黒塗花生 千のり

大正五年二月十日移入

池田村山方大橋

下谷村谷井橋

原文字墨書

自製木札

唐津花瓶

本ノボハ二個

瓦

法帖

芝罘

大典

徳志

方形

山印

紙

元

杉文

ひき出し

紙

茶

ちき

茶中

良山

良山中

良山中

青塗厚托 小箱 又空

小箱 換椰子 茶子

時代

木合子 七個 表物 七ヶ入

蜀久 益津 野類

杉木地 三付 研最 若くき

中 徳 紹 表 心 珠 風 城 湯 己 之

菊 氏 草 鏡

蘭 汗 物 玉 七 協

以上

追加

馬 頭 多 舊 箱

長 尺 八 物 ②

日 行 七

念 利 又

木 箱 四 付 大 片 口 七 七 個

天 地 木 合 子 不 道 磨 子

茶 子 所 生 字 市

井 之 石 磨 子 亦 有 大 茶 子 七

做 南 字 市 井 亦 有 七 七

板 瓦 可 陽 大 茶 子 七 七 人

井 八 付 大 茶 子 七 七

木 匣 十 人 前

時代 小形 魚 版

唐抄平阜十五

赤丸託恒路白文庫

茄子公金孫行

河島集十冊方架

河爪為程冊二枚

白泥方紙茶器七箇

茶櫃茶匙正副二枚

支那具杯七箇

木一本

山一本

佛海山七箇

織部向付七箇

紅練寺板七箇

大形竹版刻七箇

論多七箇

米圓七箇

宋玉圓七箇

修七箇

長三海七箇

旋木柄七箇

不七箇

寺七箇

七月

八月

油紙編十四

五枚

馬部十四

五枚

京都尾所十四

五枚

五七二七枚

本長立上長白書山崎一稿

山崎三之助流八尺圓一稿

翠山物手八尺一稿

碧布米上山水一稿

白水墨山水一稿

本茶小一稿

切子臺畫一稿

桐聖殿一稿

吹代
梳形流舞子畫
茶台
三圖

柄付之花

喜色水子豆花

吹代小品
去方形流木卓

泉庵清賞
五枚

大正五年二月十三日移入

一 甚古の書本修訂三冊

一 其の種系系起 琴石刻

一 身付錫系入

一 前大系、破、手山、文因

一 エマ、塗、名、底、五、五、五

一 螺、段、五、五、五

一 珉、高、四、脚、大、形、甚、出

一 菱、形、打

一 一、里、め、う、成、録、形、系、子、系

一 手、附、七、五、五、五、五

一 錫、丸、形、系、花、五、五、五

一 甚、古、山、内、甚、古、甚

一 柳、子、実、出、系、系、系

一 甚、古、竹、系、系、系、系、系

一 呼、鈴、系、系、系

一 名、め、の、系

一 釘、の、火、甚

一 モール、系、系

一 片、の、形、め、う、よ、甚、系、洗

一 木、根、ジン、系

一 平阜下 七册

一 日本古磁器花生

一 栗豚形磁器等物

一 犬山花山心赤信前茶、磁

一 小品方形磁器如板 花瓶用

一 湯衣 字法製表

以上

以下八上 大正五年六月末。物又

一 志山石作

一 踏陽通摺方法作

一 甘友洲大土感志作

一 将谷願高木村古鏡鑄

一 立名物作 一册

一 御前書門名 摺本 一册

一 平家作史

大正四年十月廿一日移入

二 祇山風物詩集

二 石州古詩集

二 綾之風物詩集

二 あしらの詩集

二 朱ぬり手紙 (附書)

二 手紙集 (附書)

二 節句集

二 鳥井娘原 抄

二 聲名集

二 新集謡曲集

二 石本集

二 月夜集

一 雑感集

一 此中諸君刻字集

一 時代小説

一 雪舟集

一 雪舟集

一 志のちり

一 志のちり

一 國語集

一 寶山集

一 英大集

一 前原一戒造(三) 石

一 石の形(一) 石
井の筒(一)

一 外圓知名木(石) 象
外: 象(石) 入

一 桂屋用(石) 産

一 石(石) 一

一 石(石) 石也心

一 石(石) 石 藤(石) 新川(石) 竹(石)

一 石(石) 石(石) 石(石) 石(石) 石(石)

一 石(石) 石(石) 石(石)

一 石(石) 石(石) 石(石) 石(石)

一 石(石) 石(石) 石(石) 石(石)

一 石(石) 石(石) 石(石) 石(石)

一 石(石) 石(石) 石(石) 石(石)

一 石(石) 石(石) 石(石) 石(石)

一 石(石) 石(石) 石(石)

一 石(石) 石(石) 石(石)

一 石(石) 石(石) 石(石)

一 石(石) 石(石) 石(石)

大正四年九月十一日移入

・ 長中是山古札記六幅

・ 三原聖子教諭幅

・ 永坂石塚山形一幅

・ 安原中尾七絶

・ 半子高麗夫人回一幅

・ 前田暢吉(半田)遺冊

二本

・ 十竹斎書畫譜 一册

・ 兒玉果真(初音)回一幅

・ 瑞行 梅州 一面

・ 枚木(八物)小笠鉢

・ 亀井眼海二字石

・ 方形大阜子

・ 長谷川果林桑一依夏

・ 日本印人傳 七册

・ 柴田村書幅

・ 吉野寺極楽金庭佛一幅

一 菊池 窓南 破里 山 一 陽
以上

一 柱 之 之 之

柱心 柱
為 係 者

一 杉 葉 之 之 之

之 之 之

一 路 次 之 之 之

一 磨 之 之 之

一 小 硯 之 之

以上

大正五年一月廿三日

福一之

大正四年四月中一初一日

石川 尾山 道 之 之 之

今 中 之 之 之

唐 棧

大形

本 魚

之 之

珠 數

同 形 之 之 之

物 之 之 之

安 南 身 之 之 之

之 之 之

之 之 之

鐵 鉢 之 之

花崗平札紙帳

河津川自花土箱

板敷 顔面格

朝鮮平つき花紙

種冊 之付

紙多眼織燭台

織 目花土箱

心 風鏡七双

井 花土箱

鏡山遠集

七 り

佛手相 重き松
心代身 眞

大洲 名 大札 花土箱

河津川自花土箱

道八 徳公 花土箱

口 做身 花土箱

文 房 花土箱

菱形銅香爐

葉八 花土箱

織紐子

おん 比更 花土箱

桐置床

カウモ
下 ケ 花土箱

木村心史楽椅子

○雅備一巻

北條

父石籠山山嵐山

乃々直念心

林路恪公古稿

自書や宗子書

明河洪(子)印譜音階

中村傳左(一)方古稿

寺書印譜稿

本所印譜稿

○四形做瓦研 大形

古磁研原子書

白泥方形水油

墨極書家四冊

おら(か)す(か)一冊

歴代清書家集七冊

物人文之草 十二冊

殿名(の)書(通)細考二冊

尸史書家考

甲(古)史代史

手(の)き(井)桶(形)花生(器)

均(米)器(造)字(の)あ(つ)き

井(取)り(ろ)大(ミ)ダ(し)糸(墨)

茶(櫃)長(方)角(形)糸(墨)

一 為元高刻品死 年付

一 徳川形備候者

山形内新 合書上巻

二 尚書

郡田考山 尚書 抄

一 丸丸版 る面 白産花

一 経冊 うけ 坊在なるもの

一 凡俗回 二葉 十二冊

一 高飛子 子 備葉子 三

一 華布 同 仍 二冊

花布之体

一 大徳寺 十牛 固 四
十本

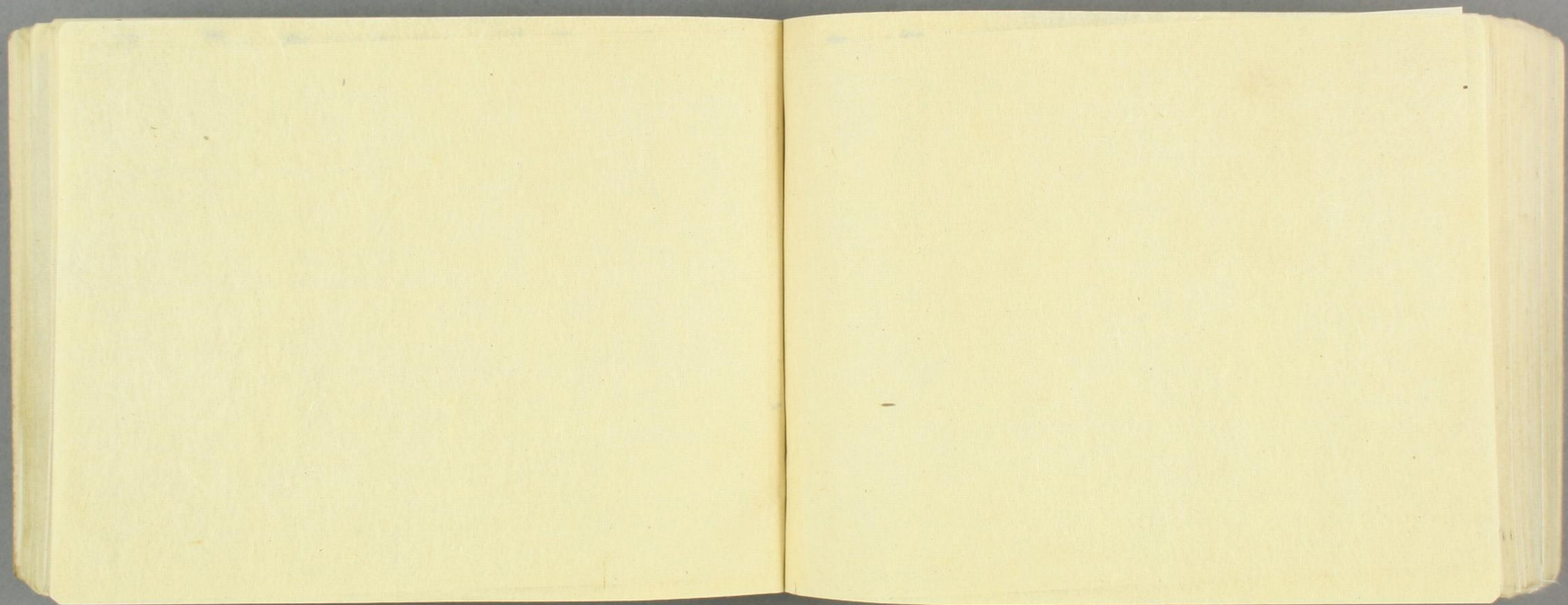
一 獨り まづ ン 三

一 田を 改 名 せ 少 幅

一 僧 織 七 徳 幅

一 奥 系 以 洲 越 岸 其 五 四
七 幅

以上



一 とうとうの井
茶棚 三好

一 自然木とりよのさ

一 織子の佩のさき

一 張交ニ板打厚凡一 織子

一 西の巻紙の呼鈴

一 桐製茶の品茶袋 里果 茶袋入

一 徳島新茶下筒

一 南茶の茶袋 茶袋

一 力中
一 擬立徳の茶二 美入

一 法帖の茶袋

一 木子竹葉の茶袋

一 大雅の茶袋

一 万葉人の茶袋

一 井茶の茶袋

一 織子の茶袋

一河内鐵兜掛物帖

一穗唐文元上人帖

一信本位經帖と和歌

一十令様書帖

一五十四卷法華經帖

一五十四卷之教人物帖

一印人書帖

一倣古板刻佛像掛軸

一伊方入 蓋子つき

一廿四のし

一廿四のし豆物つき

一藤掛子

一竹藤 揚 二

一白紙のり 拾遺つき

一木地杉のり 年の物つき 桐もつき

法政博士中士横濱

安福博士中士横濱

田中の美田中士横濱

川田博士中士横濱

五島博士中士横濱

梅田博士中士横濱

高橋博士中士横濱

大平博士中士横濱

高橋博士中士横濱
六月十日

一 推のまゝ金銀の
手紙の書

一 茶の種

一 山崎桐 林原桐 美入
山崎桐 美入

一 産物

一 飯茶 什飯七 十元 麦

一 東京の銀行
飯茶の種

八橋山麓長谷法院
貴子乃得為進言

紅玉のまひ
黄定地秀燈

水多米名
花瓶

錦手平西
立人

淡井画六六併心
大鉢

首飾類
丸白

方形内朱銘
菓子

波中提物
又

錫大茶多花
又

堀井机
又

茶碗泥
又

羅銅装
又

紫いしつぎ
銀襦袢

キレリ巻心 洋画
茶節
団扇

鞆形六角提灯

洋棟西庇 呂舟

王克三梅陽西庇 呂舟

蓮葉式平机 呂舟

蹴机水立 呂舟

洋風古欄

在見梅石軸坐

梁付大洗鉢

増色色込少籠

水屋欄

八条赤布
甚切又全(半)七色

文字額面

水部

之什花生

相子又

德刊特

二番

星如子(子)以星

滿清歌面

高打其(子)子

一開法(子)子

子

各各一式入

子(子)子(子)子(子)子

大德印字其款

子(子)子(子)子(子)子

滿清歌面

梅(子)子

机(子)子入

文(子)子(子)子(子)子

上卷二十四册

一物(子)子

坐(子)子(子)子(子)子

二物(子)子

白梅(子)子

南京古磁 今全
大花土

向首の星 一
ゆの接の乳

馬田の星 十
小四

馬田の星
馬田の星
馬田の星

馬田の星 五
馬田の星

馬田の星 五
馬田の星

馬田の星
馬田の星

馬田の星
馬田の星

馬田の星
馬田の星

馬田の星
馬田の星

馬田の星
馬田の星

馬田の星
馬田の星

菊柄状なり
木地膳 五枚

一 袋布一丈又
又二枚

六二一街
どんおき
大木
二個

三葉物
杯二枚
膳外
各一枚

毒付
上り五枚
十人

不
唐傘
其元
二枚

丸
一 榎木鉢
三枚

一 堆里
三枚

一 梨とあし
三枚
各一枚

一 山形
三枚

一 河舟
五枚

一 湯佛
二枚

一 瀬戸大徳利
花生

一 丸谷杯
六個
七二枚

一 後尾法華院

一 長部 子あふさ

一 柳澤寺地

一 古山佩石寺地

一 三井河山寺

一 久所寺地

一 五

一 成子

一 十二

一 後尾の寺も何れも

大正三年四月廿日

一 後尾の寺も何れも

一 雲龍寺

一 伝説の寺も三つあり

一 古山の寺も何れも

一 大正三年四月廿日

一 後尾の寺も何れも

一 伝説の寺も三つあり

一 古山の寺も何れも

一 白文地寺地

志回御部香合

紫檀平一卓

香盆 志回御部香合

叶製田心二大瓶

月娘の器

里如く桐の紋をく 硯箱

素天目一卓

青毛樽三枚

杉樽五枚 徳利四二枚 硯箱

柚子の器一卓 硯箱

古心徳利

銅製手拭

鑄の器 志回御部

吊瓶一卓 硯箱

古伊方天目香合一卓

清人書面而刻板一卓

茶器

花瓶 徳利形

茶拍

持瓶

内巻

志回御部

徳利一卓

志回御部

白磁茶入

白磁茶入

因生 満蒙 五定

十五の巻

蓮花片危古筒虫類

京都平八方徳利と云

云ふと尋ふと記し四ら子類

大石印二顆

其の傍持平白干

時代の如く旧物

小机 時代より

磁石七きつ

河原の石

漆の器由記

...

生布園

端注研...

道八心林柔...

前大久余行...

荳真布注...

云故お...

...

蜀火...

...

備前...

...

榎木...

花生

徳寺三寺

七丁金

同雪洞

か行不忌 穀面

ひししし

ぐり片に酢杯洗

其不盤

附其不石

石の道は行領茶碗立入

の其茶盤

銅 半入 米の富もち成海也三言歌

黄物木州飲清生和

塩入うけ花入

南帯名心花生

高松城造込物志金

丸九金 切折 古久其心

切り込み張其立片金

時代丸形めんつう

朽木ハ銅その金

備前古入付

まいふとくろく

赤岩林林小山片元

子塔生北の泥水注

外観秋千の赤

菊形投里ぬき抽あ付手若

田形投桐急須盆

と投す燈屏

和島匡一君及石張

新西

あ卜ろ物・扇

和島内あゆむ物二

いさめやあま鉄と皇

同 手拭と皇

七印一万とあ四十九枚

批幅伸縮号

長細安ととぬ

モール物とあさし

女津付南の葉子あ

ち木南浜流し物

うらこの湯箱一燈ととぬ

中村不抄お給の物

葉子あ若三様洲葉二

三浦物あ飯阿草子此

表生

和島あ徳利ととぬ

桐岸元抽あつとぬ

すし林縁秀扇

自在のきぬ代あ

二枚の厚紙 法文

引毛しき 堅軟

青磁平形大書櫃

紫木櫃大書下箱

拂子 棧指如意

掛^掛 瓢箪

朝鮮白磁の帯

趙凡丸の古杯本一箱

朝鮮飯斗六鉢

田山大正岐山別荘用一箱

杉香の箱

蔭立の函二箱

梶田半古畫一箱

外^外 櫛 櫛 大書下箱

狩野節高軒の像

小呂銅湯

法文の古書年天取

小鐵瓶

三有巾比回ニ板打座凡

一 拜山巾石圓 一 巾

一 巾の刻あり巾の条全

一 山名母貫親 一 巾

一 漱きお徳正圓

一 煙扇

一 幼多三袋袋巾

一 うまきくら歌香合

一 米仙白菓蒸圓

一 一合林形菊筒草入

一 葉汗(海の)七絶筒

一 銅こぼし

一 井邊井の徳長
一 徳長人共早石野面

一 木地丸服久人前

一 飛山道大茶之袋

一 麻夏仕布因丸袋

一 栲丸白魚七袋

一 不うあふ湯こし

一 浴風と平心丸あけ

一 古磁涼籠

一 あし 雲洞

一 井林字三掛額

一 手相紙

一 井林表花生

一 丸形蓋付菓子器

一 里ぬりし縁
林 額 田子あね
挿入

一 文庫 根地は谷
根は谷

一 研 硯 硯園は後塔之
林と以て送る

一 井多作白磁急須

一 有職記九の二枚
呂宋ハ瓶五重 硯

一 井多作湯呑
かうたに付四重桐

一 びんしき木
一

一 支那のこ

一 桐山原の 二枚
一枚

一 衝立 二枚
一枚

一 玻璃版茶巾 二枚
一枚

一 白二枚

一 懐素千文 一枚

大正六年三月初日

白丸木田舎屋 桐山原
桐の火鉢

茶棚 硯園
二ツキ 硯園の根付 硯
かうたノ山寺木ハ金

幽谷林 硯園
七五枚

古碑文刻板額
錫細刻瓶蓋七枚

五常一由

七一

あみふ

ま

状

あみだ

手あけ

あうき

えい

一 ふうぶしけり

一 ぶくがふ

一 うんが

一 ちんちん

一 ちんちん

一 おえち

一 こんろ

一 長椅子

一 一きんぐら 十五枚

一 ぞけつ

一 桑らん

一 すき

一 くは

一 茶おろし(お入)二個

一 すりこ

一 柳合子

一 造紙

一 花心ハナココロ

一 うウ 大破オホヤク

一 本ホン 糸イト 二個

一 さげサゲ 二ニ

一 らんラン 二ニ

一 指子サシコ 四

一 うウ 二ニ 糸イト 二ニ

一 櫛シ 二枚

一 帳チヤウ 二ニ 糸イト

一 後ノチ らんラン 二ニ 糸イト 二ニ

一 糸イト 二ニ

一 湯ユ 本ホン 二ニ 糸イト 二ニ

一 絹キヌ 二ニ 糸イト 二ニ

一 西洋セウヤウ 糸イト 二ニ

一 四シ 十ジュウ

一 フフ 糸イト 二ニ

一 糸イト 二ニ

西洋料理

美味入

かう久塩入

肉巻

西洋料理

美味入

牛乳瓶

銅
味入

銅
味入

味入

置ランプの味入

味入

味入

味入

洗面盆

手拭巾

七月廿二日

お茶中体あり
先めとるは
引物とるは
おまゝとるは

おけし
六拍

おけし
三拍

おけし
一

おけし
一

おけし
一

おけし
一

おけし
一

おけし
一

おけし
一

おけし
一

おけし
一

おけし
一

おけし
一

おけし
一

おけし
一

おけし
一

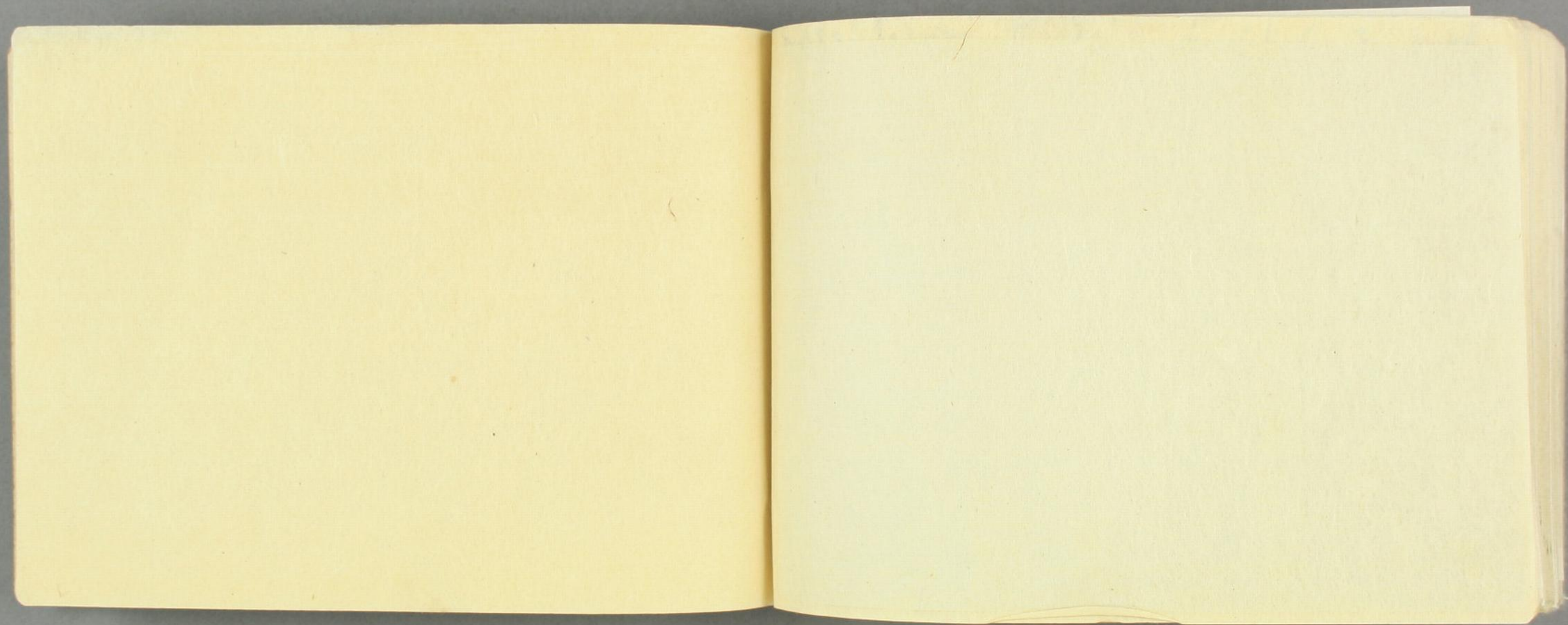
おけし
一

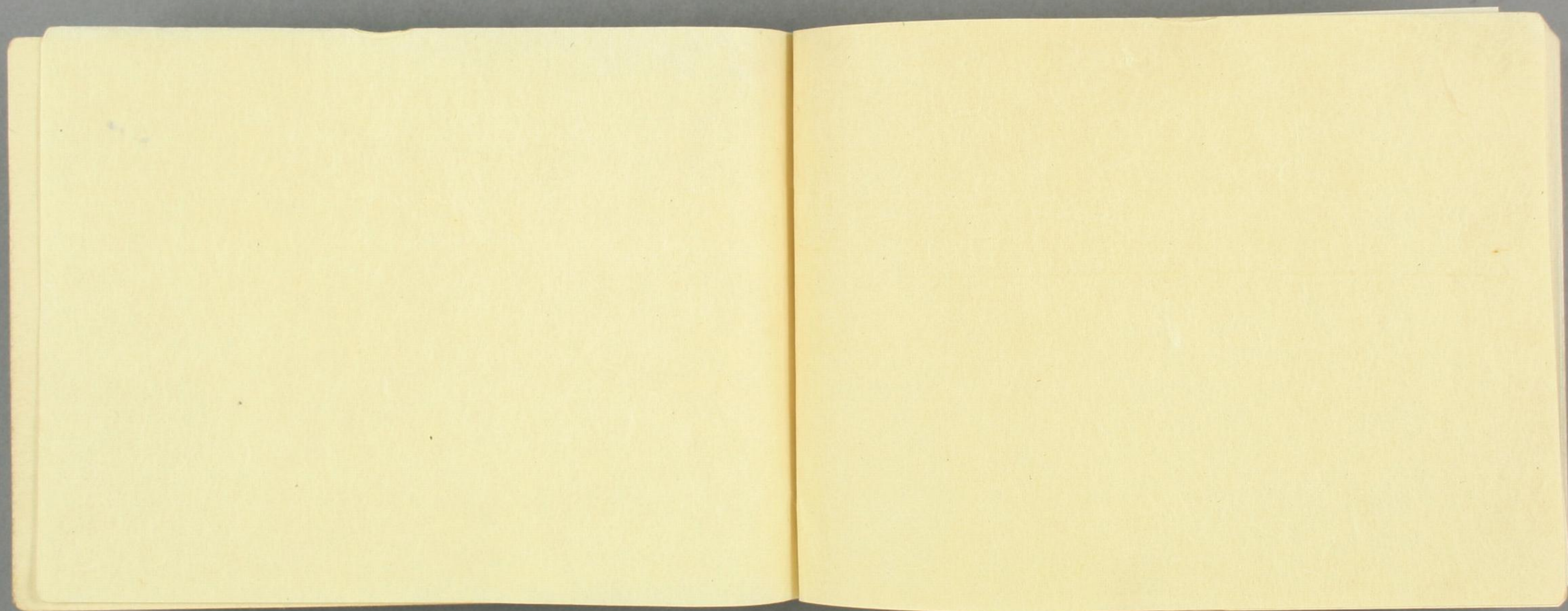
後入在所所記
録の末に記す

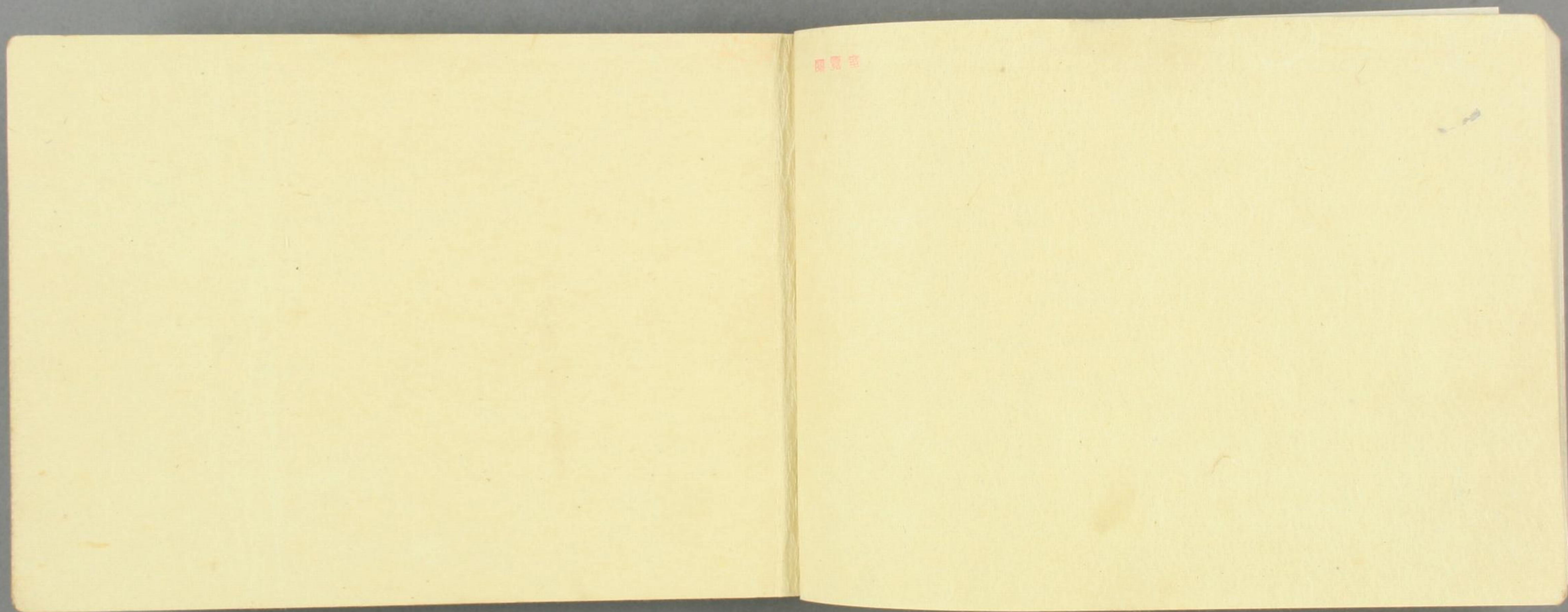
若くは今の社に花ももつち西丹
筆家りののまぬぬと結ら
ぬる點々ふぶきと田ひさ
社のゆるとくしと結らぬ
さぐさまら社に田ありと
おしりもあつていあつて余
年一有量とあつてあつて
本堂に庫ありとあつて
あつて社を建てる
漸く平野にまはるる
別荘にまはるる
貴客のこのあつて

此の寺の移入してこゝ
のまゝと得が存してまゝと
すまふ用とて切つて在り
あることの差く人々の名を
引延くの時用あるよをもま
ら移し入る而して前大茶三
の属するもの大に神地社
のまゝとてし前大茶のまゝと
すまふあやも画に於ては
りてまゝとてし神地のまゝと
こゝ(まゝ)とてし神地のまゝと
すまふ又一切飾りし時にお
のるまゝ此のまゝとてし神
地のまゝとてし神地のまゝと
すまふ

大正五年二月
日記







市山馬氏